

平成 23 年 度
(2011)

履 修 要 綱

昭和音楽大学短期大学部

平成23年度
(2011年度)

履修要綱

この履修要綱は、卒業するまでの間の履修について定めたものです。

卒業まで大切に保管し、熟読して下さい。

目次

1	コ	一	ス	2																	
2	単	位	で	定	め	る	学	習	時	間	2										
3	卒	業	に	必	要	な	単	位	数	3											
4	履	修	単	位	数	の	上	限	3												
5	「	専	門	教	育	」	と	「	教	養	教	育	」	に	つ	い	て	3			
6	教	育	課	程	(カ	リ	キ	ュ	ラ	ム)	3								
7	履	修	上	の	注	意	4														
8	成	績	評	価	5																
9	試	験	等	6																	
10	追	試	験	9																	
11	外	国	語	の	履	修	に	つ	い	て	10										
12	ソ	ル	フ	ェ	ー	ジ	ュ	の	履	修	に	つ	い	て	11						
13	デ	ジ	タ	ル	ミ	ュ	ー	ジ	ッ	ク	コ	ー	ス	の	履	修	に	つ	い	て	12
14	キ	ャ	リ	ア	関	連	科	目	に	つ	い	て	13								
15	人	材	養	成	目	的	14														
16	コ	ー	ス	別	教	育	課	程	15												
17	資	格	課	程	履	修	に	あ	た	っ	て	の	注	意	36						
18	教	職	課	程	36																
19	社	会	教	育	主	事	課	程	39												
20	学	部	編	入	学	40															
21	教	務	関	係	用	語	の	解	説	41											

1 コース

本学音楽科のコースは次の通りである。

学科	コース	卒業に必要な単位数	年間履修単位数の上限
音楽科	ピアノ	62	48
	電子オルガン		
	弦・管・打楽器		
	吹奏楽		
	音楽芸術		
	声楽		
	合唱指導者		
	バレエ		55
	デジタルミュージック		48
	ポピュラー音楽		

2 単位で定める学習時間

短大で行われる授業科目は単位制によって学習時間が定められている。本学において授業科目の単位数は、授業の種類や授業時間、自宅など授業外での学習などを総合的に踏まえ、個別授業の単位数を定めている。単位を修得するためには教室外の学習が必要であることを十分に理解すること。

- ① 法律で全ての授業科目は「1単位＝45時間の学修」と定められている。
- ② 本学においては教育効果等を勘案し、「2時間＝授業時間1コマ(80分)」と定めている。
- ③ この「45時間の学修」を各授業種別に定義したものが下記である。

1単位 = 45時間の学修 = <講義の場合>
 15時間の授業＋30時間の自習
 または30時間の授業＋15時間の自習
 = <演習の場合>
 30時間の授業＋15時間の自習
 または15時間の授業＋30時間の自習
 = <実技・実習・実験の場合>
 45時間の授業
 または30時間の授業＋15時間の自習
 = <実技個人レッスンの場合>
 毎週10分×30回の授業＋自習

(例) 講義科目で2単位の授業の場合

2単位 = 90時間の学修 = (授業30時間＋自習60時間)
 = (15回の授業＋自習60時間) の学修が必要。

3 卒業に必要な単位数

本学を卒業するためには2年以上在学し、「卒業要件単位数」の合計62単位以上を履修しなければならない。(教職・社会教育主事に関する科目の単位は卒業単位に含まれない。)

このほか、教員免許状を取得しようとする者は教職課程の授業科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。同様に社会教育主事課程を履修しようとする者は、各々の課程の授業科目を履修し、所要の単位を修得しなければならない。

4 履修単位数の上限

前述のとおり単位制度においては自習を含めた学修が前提となっている。授業時間のみを意識し、履修科目が過多になると、自習などの時間がなくなり、単位で定められた本来の学修時間を充たすことができなくなってしまうため、本学では単位の質を重視し、2ページのとおりコース別に年間の履修単位数の上限を定めている。

1年間に履修できる単位の上限を48単位とする。ただし、バリエーションに限り年間55単位とする。教職・社会教育主事に関する科目については上限単位に含まれない。

※ 例外として優秀な学生、意欲のある学生に対しては、審議の上単位の上限を超えて履修を認める場合がある。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

「卒業要件単位数」「単位数の上限」には、教職・社会教育主事の単位は含まれないので注意しよう!!

5 「専門教育」と「教養教育」について

本学の教育は「専門教育」と「教養教育」という2つの考え方で成り立っている。

「専門教育」は各コース単位で行うそれぞれの専門分野における学習のことを指しており、これについては、カリキュラムポリシーやディプロマポリシー等を通じ、教育の目的や内容が明示されている。詳細は後述のコース別教育課程にて該当コースのページを参照すること。

一方、本学では教養を「現実の生活や人生をより豊かなものにする知恵と礼節とを含む精神」と捉え、これを身につけるための授業や教育のことを「教養教育」としている。これを通じて学生は、「自ら学ぶ意欲を喚起し、広い視野で主体的に行動する力を身につけ、高い品性とコミュニケーション能力を持って社会に貢献できる音楽人、社会人」になりうるとの考えで、専門教育と同様に重視している。

これらの考え方を反映し、下記のとおり教育課程が設定されている。

6 教育課程(カリキュラム)

本学の教育課程は学則において下記の3つの区分により編成されている。

【1】教養・基礎科目

特定の学科・コースに関わらず全学共通に開講されている科目で、その内容は多くの教養科目を中心に構成されている。

教養科目には、各コースの専門分野の学習において学問的な基礎を担う科目や、卒業後に社会人として生きていくために必要であると考えられる科目など多様な科目がある。

これらの科目の中で、各コースの専門分野を学ぶ上で、基礎として重要なものについては、カリキュラムにおいて必修となっており、その他の科目については原則として学生の学習意欲に応じて選択し履修することができる。

【2】外国語科目

本学においては英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語の科目が開講されている。

この中から各コースのカリキュラムにおいて、履修すべき科目、単位数、履修年数等が定められている。英語についてはプレイスメントテストを実施し、クラス分けを行っており、レベルにあったクラスで授業を受けることができる。外国語の履修方法については10ページを参照すること。

【3】専門科目

各コースの専門分野の学習のために設置されている科目で、共通科目とは異なり履修できるコースに制限がある科目である。カリキュラムによって必修・選択が指定されている。主科実技科目や専門野に関する実習科目、卒業論文等がこれにあたる。

7 履修上の注意

- ① 履修科目は、「必修科目」「選択必修科目」「選択科目」に分かれる。各コースにより異なるので13ページ以降の教育課程を十分に理解して履修すること。
- ② 年度毎に作成される『履修登録に関する注意事項』『シラバス』を参考にして履修科目を決定すること（「履修要綱」は入学時のみ配付なので、卒業まで大切に保管すること。）
- ③ 前期、後期開始時に指示された方法により履修を希望する全ての科目を登録すること。
- ④ 登録外科目や他学科・コース科目への出席は認めない。登録後の科目変更、取り消しはできない。
- ⑤ 必修科目が不合格となった場合は、原則として当該当年度後期または次年度以降に再履修しなければならない。不合格の科目が選択科目の場合は他の科目を履修してもよい。
- ⑥ 履修年次を参考に履修科目を選定し、卒業まで無理のない履修計画を立てること。
- ⑦ 「…①」、「…②」などの積み上げ科目、外国語、ソルフェージュなど履修年次が決まっている科目等については特に注意し、計画的な単位修得を目指すこと。
- ⑧ 実技については、履修できない科目や楽器があるので、各コースのカリキュラム表で確認すること。
- ⑨ 各自の専門に偏らず、広く知識、技術を学べる科目の選択が望ましい。授業内容等についてはシラバスに記載されているので確認すること。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

履修計画を立てるには、まずはじめに「コース別教育課程」を確認しよう！！外国語科目・ソルフェージュ・デジタルミュージックコースの履修・各資格課程は、それぞれの専門ページがあるので必ず確認しよう！！

8 成績評価

- ① 成績評価基準は、S(100～90点)・A(89～80点)・B(79～70点)・C(69～60点)・F(59点以下)とし、C以上を合格として単位を認定する。Fは不合格とする。
- ② S(4ポイント)・A(3ポイント)・B(2ポイント)・C(1ポイント)・F(0ポイント)として、単位当たりの成績評価の平均値を示すGPA(グレードポイントアベレージ)を算出する。
- ③ 成績評価方法については、各授業科目によって異なるのでシラバスによって明示する。

【GPAについて】

GPA(グレードポイントアベレージ)とは、成績を単位あたりの平均ポイントで表したものです。

S:4ポイント A:3ポイント B:2ポイント C:1ポイント F(M, Tも同様):0ポイント

※認定単位“N”や履修取り消し科目“W”はGPA計算対象外です。

※不合格科目もGPAの計算対象となります。

※不合格科目を次の年に再履修して合格した場合も、合格の成績とともに、不合格の成績がGPAの計算対象となる。

具体例として、以下の場合のGPAを計算します。

科目名	単位数	成績	ポイント
情報機器演習	2	S	4
ピアノⅡ①	3	A	3
和声学①	4	B	2
経済学Ⅰ	2	C	1
西洋音楽史	4	F	0

- ・ ポイント合計 $(2 \times 4) + (3 \times 3) + (4 \times 2) + (2 \times 1) + (4 \times 0) = \underline{27}$
- ・ 単位数合計 $2 + 3 + 4 + 2 + 4 = \underline{15}$
- ・ GPA $27 \div 15 = \underline{1.80}$ (小数点第3位四捨五入)

<注意事項>

- 履修登録をした科目については、最後まできちんと授業に出ること。
- 万が一履修の取り消しをする場合は、期限を守り手続きをすること。
- 不合格科目は、卒業後も成績として残ります。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

履修取り消し手続きをすると、成績は“W”となりGPAの計算対象外となるので、取り消しをする場合は、必ず期限までに「履修取り消し手続き」をすること！！
期限を過ぎた場合は取り消しが出来なくなるので注意しよう！

9 試験等

【1】実技試験(個人レッスン)

A 定期試験について

- ① 定期試験は、原則として年間2回行う。
- ② 各試験の時間割は掲示板にて発表する。
- ③ 受験資格は、前期試験ではレッスン回数の半分以上の出席を、後期試験では年間20回以上の出席を得た者とする。また、所定の期日(前期4月20日、後期9月25日)までに授業料を納入しなければ受験できない。

B 試験運営について

① 実技試験種別

1年次	:前期実技試験、後期実技試験
2年次	:前期実技試験、後期実技試験
研究生	:前期実技試験、後期実技試験

② 試験重複届

試験実施日時に2科目以上の試験が重複する場合、伴奏者が他の試験と重複する場合は、事前に「試験重複届」を提出すること。

C 実技試験注意事項

【ピアノ実技試験】

- ① それぞれの試験の課題曲、演奏時間については、その都度発表する。
- ② 暗譜で演奏し、原則として繰り返しはしない。

【電子オルガン実技試験】

- ① 課題曲、演奏時間については毎年度当初に発表する。

【弦・管・打楽器実技試験】

① 演奏時間・課題曲

各試験の演奏時間は次のとおりとする。課題曲についてはその都度発表する。

1年次前期	5分以内の基礎的内容(スケール・エチュードなど)を含む試験
2年次前期	5分以内
卒業試験	15分以内(チューニング等準備の時間を含む)
研究生修了試験	15分以内(チューニング等準備の時間を含む)
上記以外の試験	7分以内
全副科	3分以内

② 伴奏者について

伴奏者は各自で用意すること(ただし原則として本学学生・伴奏講師・伴奏研究員に限る)。

【声楽実技試験】

- ① 課題曲、演奏時間は毎年度当初に発表する。
- ② 長い前奏、間奏、特に後奏はカットすることが望ましい。
- ③ 研究生の修了試験を除き、過去の試験で一度発表した曲目を受験曲にすることはできない。
- ④ 原則として、原語で歌唱のこと。
- ⑤ 伴奏者については下記のとおりとする。

1年次(前期・後期)・2年次(前期)	: 本学学生
2年次(卒業試験のみ)	: 本学学生・伴奏講師・伴奏研究員
研究生	: 本学学生・伴奏講師・伴奏研究員

【デジタルミュージック実技試験】

- ① 提出作品は年1回とし、課題は毎年度、前期中に掲示にて発表する。
- ② 提出作品は未発表のものに限る。

【ポピュラー系実技試験】

それぞれの試験の課題曲、演奏時間についてはその都度発表する。

【2】学科目試験

A 定期試験について

- ① 原則として年間1回の定期試験を行う。その他試験についてはシラバスを参照のこと。
- ② 各試験の時間割は試験開始の1週間前までに発表する。ただし試験時間は通常の授業時間と異なることがあるので注意すること。
- ③ 授業時間数の3分の2以上の出席を受験資格とする。また、所定の期日(前期4月20日、後期9月25日)までに授業料を納入しなければ受験できない。

B 学科目試験の運営について

- ① 原則として通年科目は30回の授業とは別に年間1回、また半期科目は前期・後期の15回の授業とは別に1回の定期試験を実施する。
- ② 複数担当者のいる授業、複数クラスのある授業の場合には共通試験期間中に合同で試験を行う場合がある。時間割は別途掲示にて発表する。

【3】レポート試験及び提出物

授業、定期試験、追試験等でレポートを提出しなければならないことがある。レポートの提出方法は次のとおりとする。

- ① 通常授業でレポートを提出する場合は担当教員の指示に従うこと。
- ② 定期試験が「レポート試験」になる場合は、定められた期日までに指定された方法で提出すること。
- ③ 作成にあたってはペン・ボールペン書きまたはパソコンとする(鉛筆書き不可)。
- ④ 特に指定のない場合は、本学指定の用紙を用い表紙をつけ、しっかりと綴じること。

- ⑤ 提出に際しては、「レポート提出証(学部:青 短大:ピンク)」に所定の事項を記入(鉛筆書き不可)して左上部に貼付すること。提出証の控えは必ず保管すること。
- ⑥ 定められた期限以降は受理しないので注意すること。

<重要> レポート、論文等における盗用・剽窃^{ひょうせつ}行為について

引用であることを明記せず、書物やウェブ上のサイトから他人の文章を丸写ししたり、抜き書きしたりすることは、盗用や剽窃行為となる。

上記のような盗用や剽窃行為によるレポート・論文は試験におけるカンニングと同様に不正行為に当る。

※ 剽窃^{ひょうせつ} = 他人の作品や論文を盗んで、自分のものとして発表すること。

【4】受験時の注意事項

A 受験者は次の諸点を厳守しなければならない。

- ① 受験科目は履修手続き済みのものであり、授業料等学費の滞納のないこと。
- ② 指定された試験場で受験すること。(開始5分前までに着席すること。)
- ③ 受験の際は学生証または受験許可証(仮学生証)を必ず所持すること。
- ④ 学科目試験において遅刻した者は担当教員の指示を受けること。
- ⑤ 実技試験においては、指定された日までに担当教員に受験曲目票を提出する。試験当日は自分の受験すべき時間に遅刻した者は受験できない。
- ⑥ 不正行為をしてはならない。
※以上の他試験場内の秩序維持はすべて監督者の指示に従うこと。

B 不正行為に対する処分(重要)

- ① 私語や、態度の不正な者、監督者の指示に従わない者、その他不正行為とみなされた者に対し、監督者は退場を命じ、かつその答案を無効とする。
また、不正行為が認められた場合は、受験した科目も含め、当該期の全科目を無効とする。
- ② 処分された学生については学内に公示する。
- ③ 不正行為として処分された者は、留年となることがあるので十分注意すること。
※ 不正行為は「懲罰」の対象であり記録に残る。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

仮学生証発行は年に1回のみ！ 学生証は必ず所持しよう！！

実技試験・学科目試験等の日程や課題は掲示にて発表。常に掲示を確認すること！！

掲示物の見間違いには注意！ 注意深く確認しよう！

その他の連絡事項等も掲示板を利用しての連絡が多いので、掲示板のチェックは大切！！

10 追試験

【追試験】

定期試験を欠席し、追試験を希望する学生に対して行われる試験である。学生は本学が認めた場合のみ受験できる。

追試験の成績評価は得点より1割減となる。公欠制度による追試験受験は本試験扱いとして成績評価する。

【「追試験願」の提出について】

追試験の希望者は「追試験願」用紙に欠席の理由が証明できる次の書類を添付して教務課に提出すること。

- ① 急な病気・ケガによる欠席の場合は、欠席した日に治療、診断したことが分かる医師の診断書。
- ② 交通機関の事故。遅延等による欠席の場合は、交通機関が発行する証明書。
- ③ 本学が公欠として定めた就職試験による欠席は、就職試験実施証明書(書式は厚生課)。
- ④ 本学が公欠として定めた忌引による欠席は、学費負担者が署名・捺印した忌引願(書式は教務課)。
- ⑤ 上記以外の本学が公欠制度として定めた欠席については、それを証明することができる書類。
- ⑥ 「追試験願」は試験日を含め4日以内(土日祝日含む)に提出すること。但し土日祝日は提出を受付けない。

【注意事項】

- ① 全ての手続きにおいて添付書類の無い「追試験願」は一切受付けない。
- ② 試験当日、電話による連絡は欠席理由を認めるものにはならない。期日までに手続きをすること。
- ③ 病気・ケガによる通院、治療、入院など試験に欠席することが予想される場合は必ず事前に手続きをすること。
- ④ 就職試験や他の公欠制度など、事前に欠席することが分かっている場合は必ず事前に手続きをすること。
- ⑤ 出席日数不足等による受験停止者の追試験願は受付けない。

【追試験実施について】

- ① 学生から提出された「追試験願」を本学が審査する。受験が認められた学生については掲示で案内。
- ② 受験が認められた学生は、事務局内設置の券売機にて追試験受験証紙(学科目1,000円、実技3,000円)を購入し、教務課へ提出。公欠制度による追試験は証紙が不要なので、所定用紙を提出すること。
- ③ 本学が定めた日程において追試験を受験すること。
- ④ 追試験欠席による追試験は行わない。本人の自己都合で、定められた追試験日に受験できない場合も理由のいかんを問わず同様とする。

♪♪♪ ポイント ♪♪♪

追試験を希望する場合には必ず期限までに手続きをすること！！

手続に必要な書類を提出できるようにきちんと準備しておこう！

追試験を受験するにあたり、受験料が発生することを覚えておこう！！

11 外国語の履修について

【1】外国語の卒業要件

下表を見て、履修すべき外国語・卒業に必要な履修年数及び単位数を確認。

		短大									
		音楽科									
		ピアノ	電子オルガン	弦・管・打楽器	吹奏楽	音楽芸術	声楽	合唱指導者	バレエ	デジタルミュージック	ポピュラー音楽
卒業要件	語学の種類	注1				イタリア語	注1				英語
	単位	4				4	4				
	年数 注2	1				1	1				

注1 英語・イタリア語・ドイツ語・フランス語の中から1ヶ国語を選択。

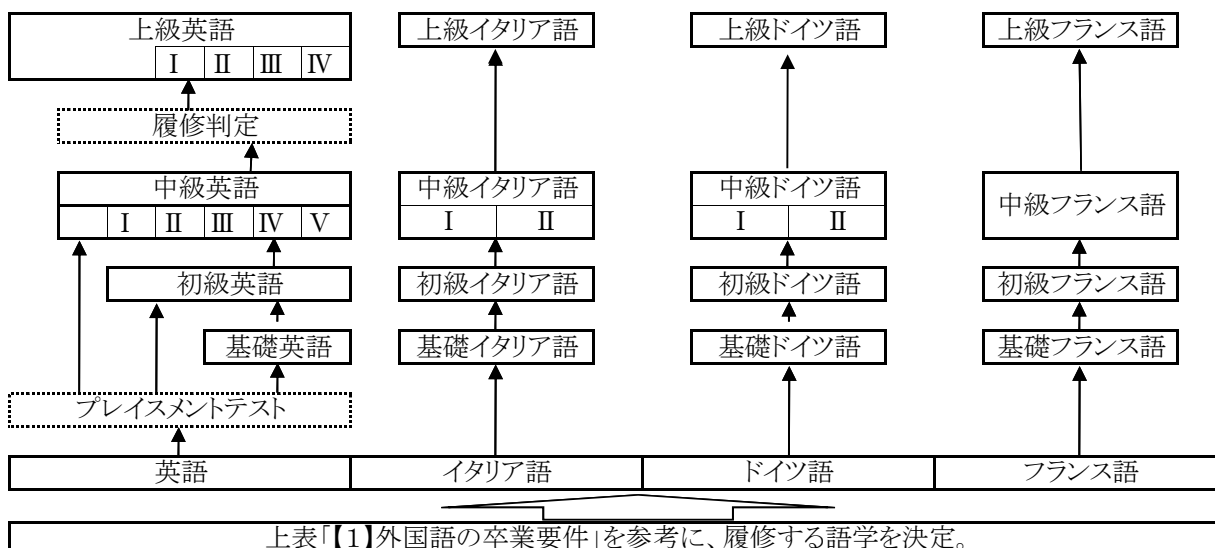
卒業要件に関わる単位・年数は、選択した語学1ヶ国語で数えるので継続して履修すること。

注2 1年間履修した結果不合格となった場合は、この「年数」には数えられないので、十分注意すること。

<その他>

- ・ 外国語は1年間に2ヶ国語(8単位)まで履修可。同一外国語ならば4単位まで。
- ・ 履修するレベルは、それ以前に履修したレベルを下げて履修することはできない。
- ・ 「上級英語」を修得するには、「中級英語」を2科目以上単位修得した後、上級レベルの履修判定を受けなければならない。(プレイスメントテストで「上級英語」履修を指示された場合を除く。)
- ・ 異なるレベルを同一年次には履修できない。
- ・ 全ての外国語科目はコミュニケーションを含む。
- ・ 1年次から履修を開始し、2年次で卒業に必要な単位数を修得すること。

【2】外国語の履修プロセス



12 ソルフェージュの履修について

【1】ソルフェージュの卒業要件

下表を見て、履修すべきソルフェージュ・卒業に必要な履修年数及び単位数を確認。

		短大									
		音楽科									
		ピアノ	電子オルガン	弦・管・打楽器	吹奏楽	音楽芸術	声楽	合唱指導者	デジタルミュージック	ポピュラー音楽	バレエ
卒業要件	ソルフェの種類	注1									
	単位数	4				2			0 (選択自由)		
	年数注2	2				1			0 (選択自由)		

注1 「視唱ソルフェージュ」「聴音ソルフェージュ」「総合ソルフェージュ」「鍵盤ソルフェージュ」の中から任意の科目を選択。「基本ソルフェージュ」を受講するよう指示があった場合は、そちらを履修すること。

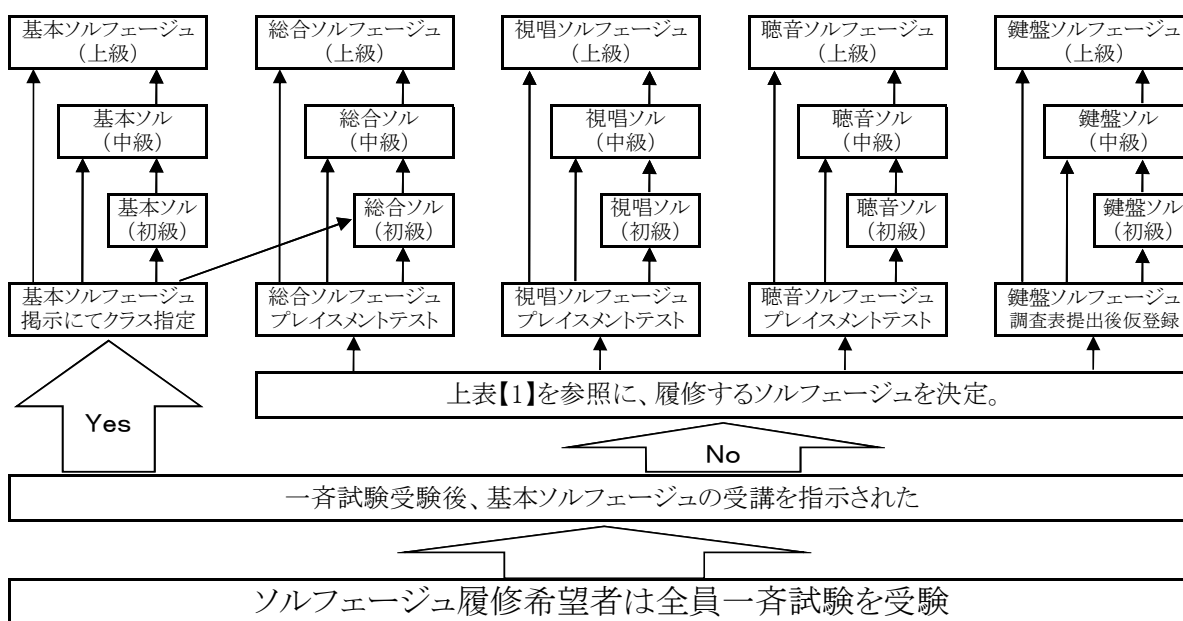
また「基本ソルフェージュ」履修者は、「総合ソルフェージュ(初級)」も併せて履修することを推奨する。その他の科目は履修不可。この中からいくつかのソルフェージュを組み合わせ、卒業要件の単位数・年数を満たすこと。

注2 1年間履修した結果不合格となった場合は、この「年数」には数えられないので、十分注意すること。

<その他>

- 履修するレベルが決まったら、翌年度はそのレベルを下げて履修することはできない。

【2】ソルフェージュの履修プロセス



13 デジタルミュージックコースの履修について

【1】デジタルミュージックコース 理論系科目の履修について

A 理論系科目（音楽理論、オーケストレーション、対位法 I）の卒業要件

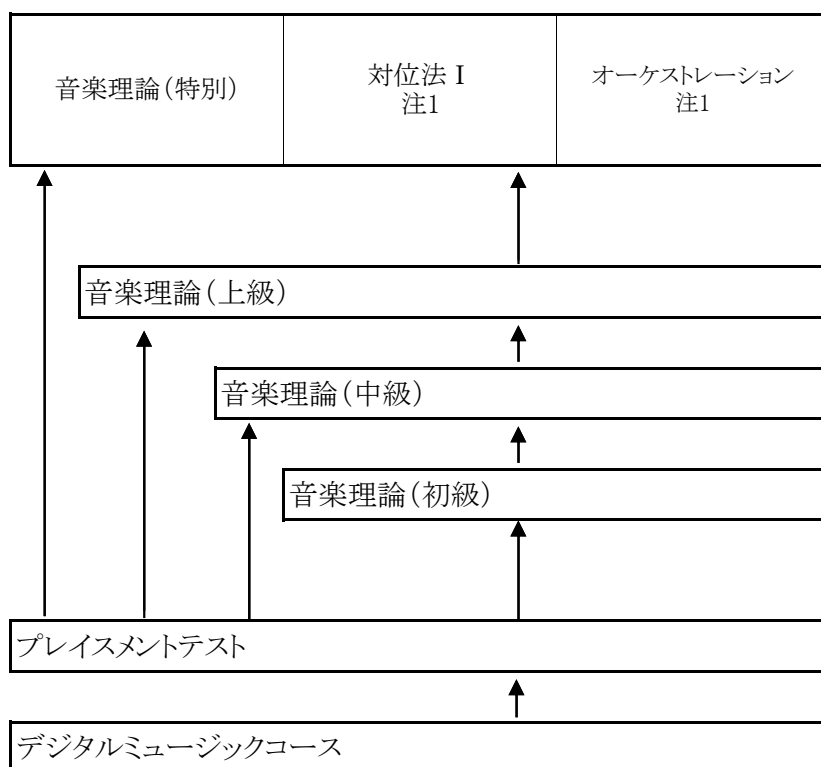
下表を見て、履修すべき理論系科目（音楽理論、オーケストレーション、対位法 I）・卒業に必要な単位を確認。

		短大
		音楽科
		デジタルミュージック
卒業要件	科目の種類	音楽理論 (初級)、(中級)、(上級)、(特別) のいずれか1科目
	単位	4



下記Bの音楽理論、オーケストレーション、対位法 I の履修プロセスにしたがって履修する

B 音楽理論、オーケストレーション、対位法 I の履修プロセス



注1 オーケストレーション、対位法 I は2年次以降に履修可

<その他>

- 音楽理論の同時履修は認めない。
- 音楽理論は、履修するレベル決定後、翌年度以降にそのレベルを下げて履修することはできない。

14 キャリア関連科目について

本学では、キャリア形成支援に資する授業科目を「キャリア関連科目」として開講しています。

「キャリア関連科目」には、音楽人として音楽全般を高める音楽的なキャリア科目と、人間として一般常識等を身につける教養的なキャリア科目があります。

自分の専門分野の科目とキャリア関連科目を上手く組み合わせ履修し、自己のキャリア形成に役立ててください。

なお、「キャリア関連科目」には必修科目と選択科目があるので、各コースそれぞれの履修要綱をよく確認してください。

短大
キャリア関連科目名
外国語科目全部
ソルフェージュ科目
芸術特別研究①
芸術特別研究②
鍵盤演奏表現Ⅱ
鍵盤演奏表現Ⅲ
鍵盤演奏表現Ⅳ
西洋音楽史
オペラ史概論
鍵盤音楽史
器楽史
音楽人基礎①
音楽人基礎②
音楽人研究
総合演習
総合教養
音楽活動研究Ⅰ
音楽活動研究Ⅱ

14 人材養成目的

音楽科 人材養成目的

本学の音楽科は、各々の専門分野における実践的な能力を備えた教養豊かな人材を育成するために専門教育を行う。

各コースにおいては、基礎を学び多くの実践の場を経験することで、専門性の高い技術・知識を身につける。

15 コース別教育課程

コース	ピアノコース
カリキュラムポリシー	少人数教育により、幅広い音楽的知識を高め、演奏能力の向上を目指す。ソロ以外に伴奏法及び「秋のコンサート」においてはアンサンブルを学び、ステージでの実践的演奏法を修得する。
ディプロマポリシー	ソロのみではなくアンサンブルの経験により、豊かな音楽的教養を身につけ、社会で活躍しうる演奏表現ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修				選択	
		専門科目		外国語科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
27 単位	10 単位	最低2単位	最低2単位	最低 4 単位		17 単位以上	
合計 37 単位 (A)		最低 8 単位 (B)				62単位-(A)-(B)	

基本的な注意事項(右表参照)

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「ピアノ I ①」→「ピアノ I ②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- C 「伴奏法①」の既修者のみ履修可。
- D 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。

音楽科

ピアノコース

		1年				2年			
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意
必修	専門科目	ピアノI①	6		A	ピアノI②	6		
		声乐II①	3			ピアノ演奏研究②	3		
和声学①		4							
合唱①		2							
西洋音楽史		4							
ピアノ演奏研究①		3							
	教養・基礎科目	芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1		
		総合教養	2※						
		音楽人基礎①	2						
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ(初級)	2						
		基本ソルフェージュ(中級)	2						
		基本ソルフェージュ(上級)	2						
		視唱ソルフェージュ(初級)	2						
		視唱ソルフェージュ(中級)	2						
		視唱ソルフェージュ(上級)	2						
		聴音ソルフェージュ(初級)	2						
		聴音ソルフェージュ(中級)	2						
		聴音ソルフェージュ(上級)	2						
		総合ソルフェージュ(初級)	2						
		総合ソルフェージュ(中級)	2						
		総合ソルフェージュ(上級)	2						
		鍵盤ソルフェージュ(初級)	2						
		鍵盤ソルフェージュ(中級)	2						
	鍵盤ソルフェージュ(上級)	2							
	外国語科目	基礎英語	4			初級イタリア語	4		
		初級英語	4			中級イタリア語 I	2		
		中級英語 I	2			中級イタリア語 II	2		
		中級英語 II	2			上級イタリア語	2		
		中級英語 III	2			初級ドイツ語	4		
		中級英語 IV	2			中級ドイツ語 I	2		
		中級英語 V	2			中級ドイツ語 II	2		
		上級英語 I	2			上級ドイツ語	2		
		上級英語 II	2			初級フランス語	4		
		上級英語 III	2			中級フランス語	2		
		上級英語 IV	2			上級フランス語	2		
		基礎イタリア語	4						
		基礎ドイツ語	4						
基礎フランス語		4							
選択	専門科目	伴奏法①	2	○	A	伴奏法②	2		C
		リトミック①	2			リトミック②	2		
		鍵盤音楽史	4			声乐II②	3		
		児童心理	2※			和声学②	4		
		音楽基礎研究	4			合唱②	2		
		西洋文化史 I	2※			伴奏実習	1		
		西洋文化史 II	2※			音楽生理学	2※		
		音楽療法概説	2※			楽式論	4		
		音楽療法演習 II	2※			器楽史	4		
		日本音楽概論 I	2※	○		オペラ史概論	4		
		日本音楽概論 II	2※			音楽療法各論 I	2※		
		バレー音楽演習	2			音楽療法各論 II	2※		
		バレー用語演習	1※			合奏 II	2	○	
		合奏IV①	2			作曲・編曲法	2	○	
	作曲家・作品研究	2		指揮法	2	○			
				総合演習	2※	○			
				民族音楽概論 I	2※				
				民族音楽概論 II	2※				
				舞踊譜演習	2				
				合奏IV②	2				
	教養・基礎科目	哲学	2※			鍵盤演奏表現 III	2		D D D D
		文学	2※			鍵盤演奏表現 IV	2		
美術史 I		2※			共同講義 I	2※			
美術史 II		2※			共同講義 II	2※			
日本国憲法		2※	○		共同講義 III	2※			
経済学 I		2※			共同講義 IV	2※			
経済学 II		2※			音楽人研究	2			
情報機器演習		2※	○		音楽人基礎②	2			
体育理論		2※	○						
体育実技		1※	○						
音響学		2※	○						
音声学		2※	○						
日本伝統音楽演習 I		1※	○	B B					
日本伝統音楽演習 II		1※	○						
海外研修 II		3							
海外研修 IV		3							
海外研修 V		3							
セルフディベロップメント		2※							
音楽活動研究 I	1								
音楽活動研究 II	1								
鍵盤演奏表現 I	2								
鍵盤演奏表現 II	2								
ポランディア論	2※								
日本文化史	2※								

コース	電子オルガンコース
カリキュラムポリシー	電子オルガンの様々な分野に対応できる応用力の向上を目指す。2年間の限られた期間の中で、音楽全般に関する幅広い知識を身につけ、演奏技術と表現法を修得する。
ディプロマポリシー	指導者として必要な演奏技術や指導力、音楽人としての幅広い音楽的教養を身につけるとともに、電子オルガンの多様性に即した思考ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修				選択	
		専門科目		外国語科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
31 単位	16 単位	最低2単位	最低2単位	最低 4 単位		7 単位以上	
合計 47 単位 (A)		最低 8 単位 (B)				62単位-(A)-(B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「電子オルガン I ①」→「電子オルガン I ②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- C 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。

音楽科

電子オルガンコース

		1年				2年				
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意	
必修	専門科目	電子オルガンI①	6			電子オルガンI②	6			
		電子オルガンアンサンブル①	2			電子オルガンアンサンブル②	2			
		電子オルガン演習①	2			電子オルガン演習②	2			
		ピアノII①	3			ピアノII②	3			
		声楽II①	3			電子楽器研究	2※			
		和声学①	4		A					
		合唱①	2							
		西洋音楽史	4							
	教養・基礎科目	芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1			
		総合教養	2※							
		音楽人基礎①	2							
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ(初級)	2							
		基本ソルフェージュ(中級)	2							
		基本ソルフェージュ(上級)	2							
		視唱ソルフェージュ(初級)	2							
		視唱ソルフェージュ(中級)	2							
		視唱ソルフェージュ(上級)	2							
		聴音ソルフェージュ(初級)	2							
		聴音ソルフェージュ(中級)	2							
		聴音ソルフェージュ(上級)	2							
		総合ソルフェージュ(初級)	2							
		総合ソルフェージュ(中級)	2							
		総合ソルフェージュ(上級)	2							
	鍵盤ソルフェージュ(初級)	2								
	鍵盤ソルフェージュ(中級)	2								
	鍵盤ソルフェージュ(上級)	2								
		外国語科目	基礎英語	4			初級イタリア語	4		
			初級英語	4			中級イタリア語 I	2		
			中級英語 I	2			中級イタリア語 II	2		
			中級英語 II	2			上級イタリア語	2		
			中級英語 III	2			初級ドイツ語	4		
	中級英語 IV		2			中級ドイツ語 I	2			
	中級英語 V		2			中級ドイツ語 II	2			
	上級英語 I		2			上級ドイツ語	2			
	上級英語 II	2			初級フランス語	4				
	上級英語 III	2			中級フランス語	2				
	上級英語 IV	2			上級フランス語	2				
		基礎イタリア語	4							
		基礎ドイツ語	4							
		基礎フランス語	4							
選択	専門科目	リトミック①	2			リトミック②	2			
		鍵盤音楽史	4			声楽II②	3			
		音楽基礎研究	4			和声学②	4			
		西洋文化史 I	2※			合唱②	2			
		西洋文化史 II	2※			楽式論	4			
		音楽療法概説	2※			器楽史	4			
		音楽療法演習 II	2※			オペラ史概論	4			
		伴奏法①	2	○		音楽療法各論 I	2※			
		日本音楽概論 I	2※	○		音楽療法各論 II	2※			
		日本音楽概論 II	2※			作曲・編曲法	2		○	
		合奏IV①	2			指揮法	2		○	
		作曲家・作品研究	2			総合演習	2※		○	
					民族音楽概論 I	2※		○		
					民族音楽概論 II	2※				
					合奏IV②	2				
		教養・基礎科目	哲学	2※			鍵盤演奏表現 III	2		
			文学	2※			鍵盤演奏表現 IV	2		
			美術史 I	2※			共同講義 I	2※		C
			美術史 II	2※			共同講義 II	2※		C
			日本国憲法	2※	○		共同講義 III	2※		C
	経済学 I		2※			共同講義 IV	2※		C	
	経済学 II		2※			音楽人研究	2			
	情報機器演習		2※	○		音楽人基礎②	2			
	体育理論	2※	○							
	体育実技	1※	○							
	音響学	2※	○							
	音声学	2※								
	日本伝統音楽演習 I	1※	○	B						
	日本伝統音楽演習 II	1※	○	B						
	海外研修 II	3								
	海外研修 IV	3								
	海外研修 V	3								
	セルフディベロップメント	2※								
	音楽活動研究 I	1								
	音楽活動研究 II	1								
	鍵盤演奏表現 I	2								
	鍵盤演奏表現 II	2								
	ボランティア論	2※								
	日本文化史	2※								

コース	弦・管・打楽器コース
カリキュラムポリシー	専門的内容の科目及びアンサンブル、合奏等を通じて、豊かな感性を身につけ、様々な分野に対応できる能力の向上を目指す。また演奏技術、音楽的知識を修得する。
ディプロマポリシー	アンサンブルを始めとする総合的音楽能力を生かし、豊かな感性と教養を生かした演奏ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修				選択	
		専門科目		外国語科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
31 単位	11 単位	最低2単位	最低2単位	最低 4 単位		12 単位以上	
合計 42 単位 (A)		最低 8 単位 (B)				62単位-(A)-(B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「器楽Ⅰ①」→「器楽Ⅰ②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 指定された者のみ履修可。
- C 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- D 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- E 教職課程履修者は「ピアノⅡ②」を履修することが望ましい。

音楽科

弦・管・打楽器コース

		1年				2年			
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意
必修	専門科目	器楽Ⅰ①	6			器楽Ⅰ②	6		
		合奏Ⅰ①	4			合奏Ⅰ②	4		
		ピアノⅡ①	3						
声乐Ⅱ①		3		A					
和声学①		4							
合唱①		2							
西洋音楽史		4							
教養・基礎科目	芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1			
	総合教養	2※							
	音楽人基礎①	2							
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ(初級)	2						
		基本ソルフェージュ(中級)	2						
		基本ソルフェージュ(上級)	2						
		視唱ソルフェージュ(初級)	2						
		視唱ソルフェージュ(中級)	2						
		視唱ソルフェージュ(上級)	2						
		聴音ソルフェージュ(初級)	2						
		聴音ソルフェージュ(中級)	2						
		聴音ソルフェージュ(上級)	2						
		総合ソルフェージュ(初級)	2						
		総合ソルフェージュ(中級)	2						
		総合ソルフェージュ(上級)	2						
		鍵盤ソルフェージュ(初級)	2						
		鍵盤ソルフェージュ(中級)	2						
		鍵盤ソルフェージュ(上級)	2						
	外国語科目	基礎英語	4			初級イタリア語	4		
		初級英語	4			中級イタリア語Ⅰ	2		
		中級英語Ⅰ	2			中級イタリア語Ⅱ	2		
		中級英語Ⅱ	2			上級イタリア語	2		
		中級英語Ⅲ	2			初級ドイツ語	4		
		中級英語Ⅳ	2			中級ドイツ語Ⅰ	2		
		中級英語Ⅴ	2			中級ドイツ語Ⅱ	2		
		上級英語Ⅰ	2			上級ドイツ語	2		
		上級英語Ⅱ	2			初級フランス語	4		
		上級英語Ⅲ	2			中級フランス語	2		
		上級英語Ⅳ	2			上級フランス語	2		
		基礎イタリア語	4						
基礎ドイツ語	4								
基礎フランス語	4								
選択	専門科目	リトミック①	2			リトミック②	2		
		合奏Ⅲ①	2		B	合奏Ⅲ②	2		B
		音楽基礎研究	4		A	ピアノⅡ②	3		E
		西洋文化史Ⅰ	2※			声乐Ⅱ②	3		
		西洋文化史Ⅱ	2※			和声学②	4		
		音楽療法概説	2※			合唱②	2		
		音楽療法演習Ⅱ	2※			楽式論	4		
		伴奏法①	2			器楽史	4		
		日本音楽概論Ⅰ	2※	○		オペラ史概論	4		
		日本音楽概論Ⅱ	2※	○		音楽療法各論Ⅰ	2※		
		作曲家・作品研究	2			音楽療法各論Ⅱ	2※		
						作曲・編曲法	2		○
						指揮法	2		○
						総合演習	2※		○
						民族音楽概論Ⅰ	2※		
					民族音楽概論Ⅱ	2※			
	教養・基礎科目	哲学	2※			鍵盤演奏表現Ⅲ	2		
		文学	2※			鍵盤演奏表現Ⅳ	2		
		美術史Ⅰ	2※			共同講義Ⅰ	2※		D
		美術史Ⅱ	2※			共同講義Ⅱ	2※		D
		日本国憲法	2※	○		共同講義Ⅲ	2※		D
		経済学Ⅰ	2※			共同講義Ⅳ	2※		D
		経済学Ⅱ	2※			音楽人研究	2		
		情報機器演習	2※	○		音楽人基礎②	2		
		体育理論	2※	○					
		体育実技	1※	○					
		音響学	2※	○					
音声学		2※	○	C					
日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	○	C						
日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	○							
海外研修Ⅱ	3								
海外研修Ⅳ	3								
海外研修Ⅴ	3								
セルフディベロップメント	2※								
音楽活動研究Ⅰ	1								
音楽活動研究Ⅱ	1								
鍵盤演奏表現Ⅰ	2								
鍵盤演奏表現Ⅱ	2								
ボランティア論	2※								
日本文化史	2※								

コース	吹奏楽コース
カリキュラムポリシー	専門的内容の科目及びアンサンブル、合奏等を通じて、吹奏楽を中心に様々な分野に対応できる能力の向上を目指す。また演奏、吹奏楽においての音楽的知識を修得する。
ディプロマポリシー	豊かな教養のもとに身につけたアンサンブルの技術と音楽性を、正しく専攻楽器の演奏に反映させることができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修				選択	
		専門科目		外国語科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
23 単位	13 単位	最低2単位	最低2単位	最低 4 単位		18 単位以上	
合計 36 単位 (A)		最低 8 単位 (B)				62単位-(A)-(B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「器楽①」→「器楽②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 指定された者のみ履修可。
- C 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- D 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- E 教職課程履修者は「ピアノⅡ②」を履修することが望ましい。

音楽科

吹奏楽コース

		1年				2年				
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意	
必修	専門科目	器楽① 合奏Ⅰ① 和声学① 合唱① 西洋音楽史	4 4 4 2 4		A	器楽② 合奏Ⅰ② 器楽史	4 4 4			
	教養・基礎科目	芸術特別研究① 総合教養 音楽人基礎①	1 2※ 2			芸術特別研究②	1			
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ(初級)	2							
		基本ソルフェージュ(中級)	2							
		基本ソルフェージュ(上級)	2							
		視唱ソルフェージュ(初級)	2							
		視唱ソルフェージュ(中級)	2							
		視唱ソルフェージュ(上級)	2							
		聴音ソルフェージュ(初級)	2							
		聴音ソルフェージュ(中級)	2							
		聴音ソルフェージュ(上級)	2							
		総合ソルフェージュ(初級)	2							
		総合ソルフェージュ(中級)	2							
		総合ソルフェージュ(上級)	2							
		鍵盤ソルフェージュ(初級)	2							
		鍵盤ソルフェージュ(中級)	2							
	鍵盤ソルフェージュ(上級)	2								
	外国語科目	基礎英語	4				初級イタリア語	4		
		初級英語	4				中級イタリア語Ⅰ	2		
		中級英語Ⅰ	2				中級イタリア語Ⅱ	2		
		中級英語Ⅱ	2				上級イタリア語	2		
		中級英語Ⅲ	2				初級ドイツ語	4		
中級英語Ⅳ		2				中級ドイツ語Ⅰ	2			
中級英語Ⅴ		2				中級ドイツ語Ⅱ	2			
上級英語Ⅰ		2				上級ドイツ語	2			
上級英語Ⅱ		2				初級フランス語	4			
上級英語Ⅲ		2				中級フランス語	2			
上級英語Ⅳ	2				上級フランス語	2				
基礎イタリア語	4									
基礎ドイツ語	4									
基礎フランス語	4									
選択	専門科目	合奏Ⅲ①	2		B	合奏Ⅲ②	2		B	
		リトミック①	2			リトミック②	2			
		ピアノⅡ①	3	○		ピアノⅡ②	3		E	
		器楽Ⅱ①	3			器楽Ⅱ②	3			
		声楽Ⅱ①	3	○		声楽Ⅱ②	3			
		音楽基礎研究	4		A	和声学②	4			
		西洋文化史Ⅰ	2※			合唱②	2			
		西洋文化史Ⅱ	2※			楽式論	4			
		音楽療法概説	2※			オペラ史概論	4			
		音楽療法演習Ⅱ	2※			音楽療法各論Ⅰ	2※			
		日本音楽概論Ⅰ	2※	○		音楽療法各論Ⅱ	2※			
		日本音楽概論Ⅱ	2※			作曲・編曲法	2		○	
		作曲家・作品研究	2			指揮法	2		○	
						総合演習	2※		○	
					伴奏法①	2		○		
					民族音楽概論Ⅰ	2※		○		
					民族音楽概論Ⅱ	2※				
	教養・基礎科目	哲学	2※			鍵盤演奏表現Ⅲ	2			
		文学	2※			鍵盤演奏表現Ⅳ	2			
		美術史Ⅰ	2※			共同講義Ⅰ	2※		D	
美術史Ⅱ		2※			共同講義Ⅱ	2※		D		
日本国憲法		2※	○		共同講義Ⅲ	2※		D		
経済学Ⅰ		2※			共同講義Ⅳ	2※		D		
経済学Ⅱ		2※			音楽人研究	2				
情報機器演習		2※	○		音楽人基礎②	2				
体育理論		2※	○							
体育実技		1※	○							
音響学		2※								
音声学		2※								
日本伝統音楽演習Ⅰ		1※	○	C						
日本伝統音楽演習Ⅱ		1※	○	C						
海外研修Ⅱ		3								
海外研修Ⅳ		3								
海外研修Ⅴ	3									
セルフディベロップメント	2※									
音楽活動研究Ⅰ	1									
音楽活動研究Ⅱ	1									
鍵盤演奏表現Ⅰ	2									
鍵盤演奏表現Ⅱ	2									
ボランティア論	2※									
日本文化史	2※									

コース	声楽コース
カリキュラムポリシー	ベルカント唱法に根ざしたきめ細かい発声指導法による声楽基礎能力の向上を目指す。一年次は週2回制のレッスンを導入し、メサイア公演を通じて協調性を養い、音楽人として、社会性を持った個性と、それを支える技術・知識を修得する。
ディプロマポリシー	声楽基礎技術や広い知識を身につけ、イタリア古典歌曲、日本歌曲、ベルカント時代の歌曲やオペラアリアを歌唱できるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修		選択	
1年	2年	1年	2年	1年	2年
28 単位	12 単位	最低 2 単位		20 単位以上	
合計 40 単位 (A)		最低 2 単位 (B)		62単位 - (A) - (B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「声楽 I ①」→「声楽 I ②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 学部3年次編入を希望する者は履修すること。
- C 「日本伝統音楽演習 I」「日本伝統音楽演習 II」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- D 「共同講義 I～IV」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。

音楽科

声楽コース

		1年				2年			
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意
必修	専門科目	声楽Ⅰ① ピアノⅡ① 和声学① 合唱① 西洋音楽史	6 3 4 2 4		A	声楽Ⅰ② ピアノⅡ② 合唱②	6 3 2		
	教養・基礎科目	芸術特別研究① 総合教養 音楽人基礎①	1 2※ 2			芸術特別研究②	1		
	外国語科目	基礎イタリア語	4						
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ(初級)	2						
		基本ソルフェージュ(中級)	2						
		基本ソルフェージュ(上級)	2						
		視唱ソルフェージュ(初級)	2						
		視唱ソルフェージュ(中級)	2						
		視唱ソルフェージュ(上級)	2						
		聴音ソルフェージュ(初級)	2						
		聴音ソルフェージュ(中級)	2						
		聴音ソルフェージュ(上級)	2						
		総合ソルフェージュ(初級)	2						
		総合ソルフェージュ(中級)	2						
		総合ソルフェージュ(上級)	2						
		鍵盤ソルフェージュ(初級)	2						
鍵盤ソルフェージュ(中級)	2								
鍵盤ソルフェージュ(上級)	2								
選択	専門科目	リトミック①	2			リトミック②	2		
		身体表現法①	2		B	和声学②	4		
		音楽基礎研究	4		A	身体表現法②	2		B
		西洋文化史Ⅰ	2※			ドイツ歌曲研究	2		
		西洋文化史Ⅱ	2※			楽式論	4		
		音楽療法概説	2※			器楽史	4		
		音楽療法演習Ⅱ	2※			オペラ史概論	4		
		伴奏法①	2	○		音楽療法各論Ⅰ	2※		
		日本音楽概論Ⅰ	2※	○		音楽療法各論Ⅱ	2※		
		日本音楽概論Ⅱ	2※			合奏Ⅱ	2	○	
		合唱指導法①	2			作曲・編曲法	2	○	
		作曲家・作品研究	2			指揮法	2	○	
						総合演習	2※		
					民族音楽概論Ⅰ	2※	○		
					民族音楽概論Ⅱ	2※			
					合唱指導法②	2			
	教養・基礎科目	哲学	2※			鍵盤演奏表現Ⅲ	2		
		文学	2※			鍵盤演奏表現Ⅳ	2		
		美術史Ⅰ	2※			共同講義Ⅰ	2※		D
		美術史Ⅱ	2※			共同講義Ⅱ	2※		D
		日本国憲法	2※	○		共同講義Ⅲ	2※		D
		経済学Ⅰ	2※			共同講義Ⅳ	2※		D
		経済学Ⅱ	2※			音楽人研究	2		
		情報機器演習	2※	○		音楽人基礎②	2		
		体育理論	2※	○					
		体育実技	1※	○					
		音響学	2※	○					
		音声学	2※						
		日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	○	C				
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	○	C				
		海外研修Ⅲ	3						
		海外研修Ⅳ	3						
		海外研修Ⅴ	3						
セルフディベロップメント	2※								
音楽活動研究Ⅰ	1								
音楽活動研究Ⅱ	1								
鍵盤演奏表現Ⅰ	2								
鍵盤演奏表現Ⅱ	2								
ボランティア論	2※								
日本文化史	2※								
外国語科目	基礎英語	4			初級イタリア語	4			
	初級英語	4			中級イタリア語Ⅰ	2			
	中級英語Ⅰ	2			中級イタリア語Ⅱ	2			
	中級英語Ⅱ	2			上級イタリア語	2			
	中級英語Ⅲ	2			初級ドイツ語	4			
	中級英語Ⅳ	2			中級ドイツ語Ⅰ	2			
	中級英語Ⅴ	2			中級ドイツ語Ⅱ	2			
	上級英語Ⅰ	2			上級ドイツ語	2			
	上級英語Ⅱ	2			初級フランス語	4			
	上級英語Ⅲ	2			中級フランス語	2			
	上級英語Ⅳ	2			上級フランス語	2			
	基礎ドイツ語	4							
	基礎フランス語	4							

コース	合唱指導者コース
カリキュラムポリシー	高度な指導法の修得を目指す。「合唱音楽の楽しさ」と「合唱芸術のすばらしさ」を正しく伝え導く力を修得する。合唱指導に必要な指揮法や発声法、様々な言語の発語の仕方などの基本を身につけ、さらに楽曲分析などの理論や知識を修得する。
ディプロマポリシー	合唱音楽も含め、音楽芸術を広く、正しく伝え、導き、地域社会の音楽文化発展に寄与貢献できうるだけの十分なコミュニケーション能力を身につけるとともに、音楽人としての豊かな人間性・音楽性が備わった音楽指導ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修				選択	
		専門科目		外国語科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
26 単位	14 単位	最低 2 単位		最低 4 単位		16 単位以上	
合計 40 単位 (A)		最低 6 単位 (B)				62単位-(A)-(B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「合唱①」→「合唱②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- B 大学声楽学科声楽コースに3年次編入を希望する学生は履修すること。
- C 履修制限あり。各年度初めに配布される「シラバス(授業計画)」参照のこと。
- D 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- E 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。

音楽科

合唱指導者コース

		1年				2年			
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意
必修	専門科目	合唱① 合唱指導法① ピアノII① 和声学① 声楽① 歌唱法① 西洋音楽史	2 2 3 4 4 2 4		A	合唱② 合唱指導法② ピアノII② 声楽② 歌唱法②	2 2 3 4 2		
	教養・基礎科目	芸術特別研究① 総合教養 音楽人基礎①	1 2※ 2			芸術特別研究②	1		
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ(初級) 基本ソルフェージュ(中級) 基本ソルフェージュ(上級) 視唱ソルフェージュ(初級) 視唱ソルフェージュ(中級) 視唱ソルフェージュ(上級) 聴音ソルフェージュ(初級) 聴音ソルフェージュ(中級) 聴音ソルフェージュ(上級) 総合ソルフェージュ(初級) 総合ソルフェージュ(中級) 総合ソルフェージュ(上級) 鍵盤ソルフェージュ(初級) 鍵盤ソルフェージュ(中級) 鍵盤ソルフェージュ(上級)	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2						
	外国語科目	基礎英語 初級英語 中級英語 I 中級英語 II 中級英語 III 中級英語 IV 中級英語 V 上級英語 I 上級英語 II 上級英語 III 上級英語 IV 基礎イタリア語 基礎ドイツ語 基礎フランス語	4 4 2 2 2 2 2 2 2 2 2 4 4 4			初級イタリア語 中級イタリア語 I 中級イタリア語 II 上級イタリア語 初級ドイツ語 中級ドイツ語 I 中級ドイツ語 II 上級ドイツ語 初級フランス語 中級フランス語 上級フランス語	4 2 2 2 4 2 2 2 4 2 2		
選択	専門科目	リトミック① 器楽II① 身体表現法① 音楽基礎研究 西洋文化史 I 西洋文化史 II 音楽療法概説 音楽療法演習 II 伴奏法① 日本音楽概論 I 日本音楽概論 II スコアリーディング① 作曲家・作品研究	2 3 2 4 2※ 2※ 2※ 2※ 2 2※ 2※ 2※ 2 2		B A C	リトミック② 器楽II② 和声学② 身体表現法② ドイツ歌曲研究 楽式論 器楽史 オペラ史概論 音楽療法各論 I 音楽療法各論 II 合奏II 作曲・編曲法 スコアリーディング② 総合演習 民族音楽概論 I 民族音楽概論 II	2 3 4 2 2 4 4 4 2※ 2※ 2 2 2 2※ 2※ 2※		B
	教養・基礎科目	哲学 文学 美術史 I 美術史 II 日本国憲法 経済学 I 経済学 II 情報機器演習 体育理論 体育実技 音響学 音声学 日本伝統音楽演習 I 日本伝統音楽演習 II 海外研修 II 海外研修 IV 海外研修 V セルフディベロップメント 音楽活動研究 I 音楽活動研究 II 鍵盤演奏表現 I 鍵盤演奏表現 II ボランティア論 日本文化史	2※ 2※ 2※ 2※ 2※ 2※ 2※ 2※ 2※ 1※ 2※ 2※ 1※ 1※ 3 3 3 2※ 1 1 2 2 2※ 2※			鍵盤演奏表現 III 鍵盤演奏表現 IV 共同講義 I 共同講義 II 共同講義 III 共同講義 IV 音楽人研究 音楽人基礎②	2 2 2※ 2※ 2※ 2※ 2 2 2※ 2※ 2		

コース	音楽芸術コース
カリキュラムポリシー	音楽全般に関する幅広い知識を高めるとともに、コミュニケーション能力の向上を目指す。器楽・声楽の個人レッスンではクラシックのみならずポピュラー音楽を含めたジャンルから選択して、基礎的な演奏技術を修得する。
ディプロマポリシー	音楽に関する幅広い教養を身につけ、指導者をはじめとする様々な分野で活動できるようになる。

【卒業要件単位数】

必修 (選択必修の実技科目を含む)		選択必修				選択	
		専門科目 (ソルフェージュ)		外国語科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
30 単位	14 単位	最低 2 単位		最低 4 単位		12 単位以上	
合計 44 単位 (A)		最低 6 単位 (B)				62単位-(A)-(B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「ピアノ①」→「ピアノ②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。
- 実技科目については右表の必修と選択必修を合わせて20単位を修得すること。ただし1年目で10単位を修得すること。
- 主専攻実技と同名のⅡ科目は履修できない。(ピアノ①とピアノⅡ①など)
- インストゥルメンツⅡで専攻できる楽器はサクソフォン、トランペット、トロンボーン、ギター、ベース、ドラムスとする。
- 器楽Ⅱ及びインストゥルメンツⅡについては2年次に専攻楽器の変更ができる。

【右表中の注意事項】

- 「音楽基礎研究」は参考試験の結果、指定された学生は履修しなければならない(他の学生は履修不可)。この場合「和声学①」は2年次に履修する。
- 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- 「ピアノ①」の既修者のみ履修可。
- 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- ピアノ主専攻以外の教職課程履修者は「ピアノⅡ②」を履修することが望ましい。

音楽科

音楽芸術コース

		1年				2年				
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意	
必修	専門科目	ピアノ① 主専攻	4			ピアノ②	4			
		声楽Ⅱ①	3							
		器楽① 主専攻	4			器楽②	4			
		ピアノⅡ① 主専攻	3							
		声楽Ⅱ①	3							
		電子オルガン① 主専攻	4			電子オルガン②	4			
	ピアノⅡ① 主専攻	3								
	声楽Ⅱ①	3			声楽②	4				
	声楽① 主専攻	4								
	ピアノⅡ①	3								
専門科目	音楽芸術研究①	3			音楽芸術研究②	3				
	和声学①	4		A						
	合唱①	2								
	作曲家・作品研究 西洋音楽史	2 4								
教養・基礎科目	芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1				
	総合教養	2※								
	音楽人基礎①	2								
選択必修	実技科目	ピアノⅡ①	3			ピアノⅡ②	3		E	
		器楽Ⅱ①	3			器楽Ⅱ②	3			
		電子オルガンⅡ①	3			電子オルガンⅡ②	3			
		声楽Ⅱ①	3			声楽Ⅱ②	3			
		ポピュラーピアノⅡ①	3			ポピュラーピアノⅡ②	3			
		ポピュラーヴォーカルⅡ①	3			ポピュラーヴォーカルⅡ②	3			
		インストゥルメンツⅡ①	3			インストゥルメンツⅡ②	3			
		作曲Ⅱ	3							
		ソルフェージュ	基本ソルフェージュ(初級)	2						
			基本ソルフェージュ(中級)	2						
	基本ソルフェージュ(上級)		2							
	視唱ソルフェージュ(初級)		2							
	視唱ソルフェージュ(中級)		2							
	視唱ソルフェージュ(上級)		2							
	聴音ソルフェージュ(初級)		2							
	聴音ソルフェージュ(中級)		2							
	聴音ソルフェージュ(上級)		2							
	総合ソルフェージュ(初級)		2							
	総合ソルフェージュ(中級)	2								
	総合ソルフェージュ(上級)	2								
鍵盤ソルフェージュ(初級)	2									
鍵盤ソルフェージュ(中級)	2									
鍵盤ソルフェージュ(上級)	2									
外国語科目	基礎英語	4			初級イタリア語	4				
	初級英語	4			中級イタリア語Ⅰ	2				
	中級英語Ⅰ	2			中級イタリア語Ⅱ	2				
	中級英語Ⅱ	2			上級イタリア語	2				
	中級英語Ⅲ	2			初級ドイツ語	4				
	中級英語Ⅳ	2			中級ドイツ語Ⅰ	2				
	中級英語Ⅴ	2			中級ドイツ語Ⅱ	2				
	上級英語Ⅰ	2			上級ドイツ語	2				
	上級英語Ⅱ	2			初級フランス語	4				
	上級英語Ⅲ	2			中級フランス語	2				
上級英語Ⅳ	2			上級フランス語	2					
基礎イタリア語	4									
基礎ドイツ語	4									
基礎フランス語	4									
専門科目	リトミック①	2			コンピュータ音楽概論	4				
	児童心理	2※		A	リトミック②	2				
	音楽基礎研究	4			和声学②	4				
	西洋文化史Ⅰ	2※			合唱②	2				
	西洋文化史Ⅱ	2※			伴奏実習	1				
	音楽療法概説	2※			音楽生理学	2※				
	音楽療法演習Ⅱ	2※			楽式論	4				
	日本音楽概論Ⅰ	2※		○	器楽史	4				
	日本音楽概論Ⅱ	2※			鍵盤音楽史	4				
	合奏Ⅳ①	2			オペラ史概論	4				
					音楽療法各論Ⅰ	2※				
					音楽療法各論Ⅱ	2※				
					合奏Ⅱ	2		○		
					指揮法	2		○		
					総合演習	2※		○		
				即興伴奏法	2		○			
				民族音楽概論Ⅰ	2※		○			
				民族音楽概論Ⅱ	2※		○			
				作曲・編曲法	2		○			
				合奏Ⅳ②	2					
選択	教養・基礎科目	哲学	2※			鍵盤演奏表現Ⅲ	2			
		文学	2※			鍵盤演奏表現Ⅳ	2			
		美術史Ⅰ	2※			共同講義Ⅰ	2※		D	
		美術史Ⅱ	2※			共同講義Ⅱ	2※		D	
		日本国憲法	2※		○	共同講義Ⅲ	2※		D	
		経済学Ⅰ	2※			共同講義Ⅳ	2※		D	
		経済学Ⅱ	2※			音楽人研究	2			
		情報機器演習	2※		○	音楽人基礎②	2			
		体育理論	2※		○					
		体育実技	1※		○					
	音響学	2※								
	音声学	2※								
	日本伝統音楽演習Ⅰ	1※		○						
	日本伝統音楽演習Ⅱ	1※		○						
	海外研修Ⅱ	3		B						
海外研修Ⅳ	3									
海外研修Ⅴ	3									
セルフディベロップメント	2※									
音楽活動研究Ⅰ	1									
音楽活動研究Ⅱ	1									
鍵盤演奏表現Ⅰ	2									
鍵盤演奏表現Ⅱ	2									
ポランディア論	2※									
日本文化史	2※									

コース	バレエコース
カリキュラムポリシー	古典から現代までの幅広いバレエ作品に柔軟に対応できる技術力の向上を目指す。理論的学習を取り入れバレエを多角的に追求していくことで、総合的な技術や表現力を修得する。
ディプロマポリシー	現在の多様化されたバレエ作品に、バレエ・ダンサーとして柔軟に対応できるようになる。芸術家として舞台上演を通じて芸術・文化の一翼を担うことができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修						選択	
		専門科目		教養・基礎科目		外国語科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
23 単位	24 単位	3単位 (「ピアノⅡ①」履修者)		2単位 (「鍵盤演奏表現Ⅰ」履修者)		最低 4単位		8単位または9単位以上	
合計 47 単位 (A)		最低 6単位 または 7単位 (B)						62単位 - (A) - (B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「バレエ・クラスⅠ①」→「バレエ・クラスⅠ②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- 「教職」欄に△印がついている科目は、任意のいずれか1科目が教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- B 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- C 「ピアノⅡ①」または「鍵盤演奏表現Ⅰ」のいずれか1科目選択必修。ただし、「ピアノⅡ①」の履修を希望する学生は、レッスン希望アンケートの結果により「鍵盤演奏表現Ⅰ」を履修しなければならないことがある。この場合、「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。
- D 教職課程履修者は「ピアノⅡ②」を履修することが望ましい。

音楽科 バレエコース

		1年				2年			
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意
必修	専門科目	バレエ・クラスⅠ①	2			バレエ・クラスⅠ②	2		
		バレエ実習Ⅰ①	2			バレエ実習Ⅰ②	2		
		バレエ実習Ⅱ①	2			バレエ実習Ⅱ②	2		
		バレエ実習Ⅲ①	2			バレエ実習Ⅲ②	2		
		バレエ実習Ⅳ①	2			バレエ実習Ⅳ②	2		
		公演実習①	1※			公演実習②	1※		
		バレエ音楽演習①	2			動作学	4		
		解剖学	4			舞踊心理学	4		
		バレエ用語演習	1※			バレエ史	4		
		芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1		
教養・基礎科目	総合教養	2※							
	音楽人基礎①	2							
専門科目	ピアノⅡ①	3		C					
	鍵盤演奏表現Ⅰ	2		C					
選択必修	外国語科目	基礎英語	4			初級イタリア語	4		
		初級英語	4			中級イタリア語Ⅰ	2		
		中級英語Ⅰ	2			中級イタリア語Ⅱ	2		
		中級英語Ⅱ	2			上級イタリア語	2		
		中級英語Ⅲ	2			初級ドイツ語	4		
		中級英語Ⅳ	2			中級ドイツ語Ⅰ	2		
		中級英語Ⅴ	2			中級ドイツ語Ⅱ	2		
		上級英語Ⅰ	2			上級ドイツ語	2		
		上級英語Ⅱ	2			初級フランス語	4		
		上級英語Ⅲ	2			中級フランス語	2		
		上級英語Ⅳ	2			上級フランス語	2		
		基礎イタリア語	4						
		基礎ドイツ語	4						
		基礎フランス語	4						
		選択	専門科目	バレエ・クラスⅡ①	2			バレエ・クラスⅡ②	2
バレエ・クラスⅢ①	2					バレエ・クラスⅢ②	2		
バレエ・クラスⅣ①	2					バレエ・クラスⅣ②	2		
バレエ・クラスⅤ①	2					バレエ・クラスⅤ②	2		
バレエ・クラスⅥ①	2					バレエ・クラスⅥ②	2		
バレエ実習Ⅴ①	2					バレエ実習Ⅴ②	2		
バレエ実習Ⅵ①	2					バレエ実習Ⅵ②	2		
バレエ実習Ⅶ①	2					バレエ実習Ⅶ②	2		
バレエ指導法演習①	2					バレエ音楽演習②	2		
栄養学演習	1※					バレエ指導法演習②	2		
音楽基礎研究	4			○		舞踊演習	2		
西洋音楽史	4			○		ピアノⅡ②	3		D
リトミック①	2					舞台実習	2		
西洋文化史Ⅰ	2※					オペラ史概論	4		
西洋文化史Ⅱ	2※					音楽療法各論Ⅰ	2※		
音楽療法概説	2※					音楽療法各論Ⅱ	2※		
音楽療法演習Ⅱ	2※					合奏Ⅱ	2	○	
声楽Ⅱ①	3			○		作曲・編曲法	2	○	
合唱①	2			○		指揮法	2	○	
伴奏法①	2			○		総合演習	2※	○	
日本音楽概論Ⅰ	2※			○		民族音楽概論Ⅰ	2※	○	
日本音楽概論Ⅱ	2※			○		民族音楽概論Ⅱ	2※		
基本ソルフェージュ(初級)	2			△		リトミック②	2		
基本ソルフェージュ(中級)	2			△		声楽Ⅱ②	3		
基本ソルフェージュ(上級)	2			△					
視唱ソルフェージュ(初級)	2			△					
視唱ソルフェージュ(中級)	2			△					
視唱ソルフェージュ(上級)	2			△					
聴音ソルフェージュ(初級)	2			△					
聴音ソルフェージュ(中級)	2			△					
聴音ソルフェージュ(上級)	2		△						
総合ソルフェージュ(初級)	2		△						
総合ソルフェージュ(中級)	2		△						
総合ソルフェージュ(上級)	2		△						
鍵盤ソルフェージュ(初級)	2		△						
鍵盤ソルフェージュ(中級)	2		△						
鍵盤ソルフェージュ(上級)	2		△						
作曲家・作品研究	2								
舞台衣裳製作法	2								
教養・基礎科目	哲学		2※			鍵盤演奏表現Ⅲ	2		
	文学		2※			鍵盤演奏表現Ⅳ	2		
	美術史Ⅰ		2※			共同講義Ⅰ	2※		B
	美術史Ⅱ		2※			共同講義Ⅱ	2※		B
	日本国憲法		2※	○		共同講義Ⅲ	2※		B
	経済学Ⅰ		2※			共同講義Ⅳ	2※		B
	経済学Ⅱ	2※			音楽人研究	2			
	情報機器演習	2※	○		音楽人基礎②	2			
	体育理論	2※	○						
	体育実技	1※	○						
	音響学	2※							
	音声学	2※							
	日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	○	A					
	日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	○	A					
	海外研修Ⅱ	3							
	海外研修Ⅳ	3							
	海外研修Ⅴ	3							
	セルフディベロップメント	2※							
	音楽活動研究Ⅰ	1							
	音楽活動研究Ⅱ	1							
	鍵盤演奏表現Ⅱ	2							
	ポランティア論	2※							
	日本文化史	2※							

コース	デジタルミュージックコース
カリキュラムポリシー	デジタルテクノロジーを用いた音楽作品の創作能力の修得を目指す。創作実技ではクラシックやポピュラー音楽の作曲技術の基礎能力、コンピュータやデジタル機器を用いた創作能力を修得する。 音楽理論・コンピュータ音楽・録音制作・音響機器演習等の科目によって音楽の基礎理論やデジタルメディアに関する知識を修得する。
ディプロマポリシー	デジタルテクノロジーを用いた音楽作品の創作能力を身につけ、様々な音楽関連産業で音楽制作、エンジニア、ゲーム音楽等の業務に携わることができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修						選択	
		専門科目				外国語科目			
		音楽理論		ソルフェージュ					
1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年	1年	2年
30 単位	16 単位	最低 4 単位		最低 2 単位		最低 4 単位		6 単位以上	
合計 46 単位 (A)		最低 10 単位 (B)						62単位-(A)-(B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「創作実技①」→「創作実技②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【右表中の注意事項】

- A 「創作実技」と「音楽理論」に教職課程の「音楽理論」と「作曲編曲法」を含む。
- B 「器楽Ⅱ②」を履修する際に楽器変更は出来ない。
- C 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- D 履修にあたって条件が適用されることがあるので、シラバスの履修上の注意を参照すること。
- E 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。

音楽科

デジタルミュージックコース

		1年				2年			
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意
必修	専門科目	創作実技①	6		A	創作実技②	6		
		ピアノⅡ①	3			ピアノⅡ②	3		
必修	教養・基礎科目	合唱①	2			デジタルミュージック概論	2※		
		ボイジャー作曲・編曲法①	4			デジタルメディアⅠ	2※		
必修	教養・基礎科目	コンピュータリテラシー	2※			録音制作Ⅰ	2※		
		コンピュータ音楽Ⅰ	2※						
必修	教養・基礎科目	音響機器演習Ⅰ	2※						
		西洋音楽史	4						
必修	教養・基礎科目	芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1		
		総合教養	2※						
必修	教養・基礎科目	音楽人基礎①	2						
選択必修	専門科目	音楽理論(初級)	4		A				
		音楽理論(中級)	4		A				
選択必修	専門科目	音楽理論(上級)	4		A				
		音楽理論(特別)	4		A				
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ(初級)	2						
		基本ソルフェージュ(中級)	2						
選択必修	専門科目	基本ソルフェージュ(上級)	2						
		視唱ソルフェージュ(初級)	2						
選択必修	専門科目	視唱ソルフェージュ(中級)	2						
		視唱ソルフェージュ(上級)	2						
選択必修	専門科目	聴音ソルフェージュ(初級)	2						
		聴音ソルフェージュ(中級)	2						
選択必修	専門科目	聴音ソルフェージュ(上級)	2						
		総合ソルフェージュ(初級)	2						
選択必修	専門科目	総合ソルフェージュ(中級)	2						
		総合ソルフェージュ(上級)	2						
選択必修	専門科目	鍵盤ソルフェージュ(初級)	2						
		鍵盤ソルフェージュ(中級)	2						
選択必修	専門科目	鍵盤ソルフェージュ(上級)	2						
選択必修	外国語科目	基礎英語	4			初級イタリア語	4		
		初級英語	4			中級イタリア語Ⅰ	2		
選択必修	外国語科目	中級英語Ⅰ	2			中級イタリア語Ⅱ	2		
		中級英語Ⅱ	2			上級イタリア語	2		
選択必修	外国語科目	中級英語Ⅲ	2			初級ドイツ語	4		
		中級英語Ⅳ	2			中級ドイツ語Ⅰ	2		
選択必修	外国語科目	中級英語Ⅴ	2			中級ドイツ語Ⅱ	2		
		上級英語Ⅰ	2			上級ドイツ語	2		
選択必修	外国語科目	上級英語Ⅱ	2			初級フランス語	4		
		上級英語Ⅲ	2			中級フランス語	2		
選択必修	外国語科目	上級英語Ⅳ	2			上級フランス語	2		
		基礎イタリア語	4						
選択必修	外国語科目	基礎ドイツ語	4						
		基礎フランス語	4						
選択	専門科目	器楽Ⅱ①	3		B	器楽Ⅱ②	3		B
		リトミック①	2			声楽Ⅱ②	3		
選択	専門科目	ボイジャーピアノ演習①	2			合唱②	2		
		ボイジャー音楽概論	4			リトミック②	2		
選択	専門科目	音響機器演習Ⅱ	2※			ボイジャーピアノ演習②	2		
		西洋文化史Ⅰ	2※			ボイジャー作曲・編曲法②	4		
選択	専門科目	西洋文化史Ⅱ	2※			コンピュータ音楽Ⅱ	2※		
		音楽療法概説	2※			音響機器演習Ⅲ	2※		
選択	専門科目	音楽療法演習Ⅱ	2※			録音制作Ⅲ	2※		
		日本音楽概論Ⅰ	2※	○		作品研究	4		D
選択	専門科目	日本音楽概論Ⅱ	2※			オーケストレーション	4		
		声楽Ⅱ①	3	○		対位法Ⅰ	4		
選択	専門科目	作曲家・作品研究	2	○		器楽史	4		
						オペラ史概論	4		
選択	専門科目					音楽療法各論Ⅰ	2※		
						音楽療法各論Ⅱ	2※		
選択	専門科目					合奏Ⅱ	2	○	
						指揮法	2	○	
選択	専門科目					総合演習	2※	○	
						即興伴奏法	2	○	
選択	専門科目					民族音楽概論Ⅰ	2※	○	
						民族音楽概論Ⅱ	2※	○	
選択	専門科目					録音制作Ⅱ	2※		
選択	教養・基礎科目	哲学	2※			鍵盤演奏表現Ⅲ	2		E
		文学	2※			鍵盤演奏表現Ⅳ	2		E
選択	教養・基礎科目	美術史Ⅰ	2※			共同講義Ⅰ	2※		E
		美術史Ⅱ	2※			共同講義Ⅱ	2※		E
選択	教養・基礎科目	日本国憲法	2※	○		共同講義Ⅲ	2※		E
		経済学Ⅰ	2※			共同講義Ⅳ	2※		E
選択	教養・基礎科目	経済学Ⅱ	2※			音楽人研究	2		
		情報機器演習	2※			音楽人基礎②	2		
選択	教養・基礎科目	体育理論	2※	○					
		体育実技	1※	○					
選択	教養・基礎科目	音響学	2※	○					
		音声学	2※	○					
選択	教養・基礎科目	日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	○	C				
		日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	○	C				
選択	教養・基礎科目	海外研修Ⅱ	3						
		海外研修Ⅳ	3						
選択	教養・基礎科目	海外研修Ⅴ	3						
		セルフディベロップメント	2※						
選択	教養・基礎科目	音楽活動研究Ⅰ	1						
		音楽活動研究Ⅱ	1						
選択	教養・基礎科目	鍵盤演奏表現Ⅰ	2						
		鍵盤演奏表現Ⅱ	2						
選択	教養・基礎科目	ポランティア論	2※						
		日本文化史	2※						

コース	ポピュラー音楽コース
カリキュラムポリシー	ポピュラー音楽の様々なジャンルのアンサンブル体験を通して、学生同士がお互いの個性を尊重しあい、コミュニケーション能力を備えた協調性や社会性を育み、実際の音楽現場での表現技術の向上を目指す。ヴォーカル、ピアノ、ギター、ベース、ドラムス、サクソ、トランペット、トロンボーンから主専攻を選択し、演奏技術を磨くとともに音楽基礎力と個性を生かした自由な音楽表現を修得する。
ディプロマポリシー	演奏、アンサンブル、作曲・編曲、録音、ライブといったポピュラー音楽に必要な音楽力を身につけるとともに、ポピュラー音楽界を中心に、幅広く活躍できるアーティストとして演奏表現ができるようになる。

【卒業要件単位数】

必修		選択必修		選択	
		外国語科目			
1年	2年	1年	2年	1年	2年
27 単位	18 単位	最低 4 単位		13 単位以上	
合計 45 単位 (A)		最低 4 単位 (B)		62単位-(A)-(B)	

【基本的な注意事項(右表参照)】

- 数字が付記してある科目は、同じ科目名称同士①②の順番で履修する。
例)「アンサンブル①」→「アンサンブル②」
①②を、同時に履修することは認めない。
- 2年生は2年生の欄に記載されている科目の他に、1年生の科目も履修ができる。
- 時間割に記載されている科目でも、右表に記載されていない科目は履修不可。
- 外国語科目については10ページを参照すること。
- ソルフェージュについては11ページを参照すること。
- 「教職」欄に○印がついている科目は、教職必修科目。
- △1印は「音楽基礎研究」「和声学①」のどちらか1つが教職必修。
- △2印は「声楽Ⅱ①」「ヴォーカル演習①」のどちらか1つが教職必修(ヴォーカル専攻は除く)。
- ※印は半期(前期または後期)のみで履修が終わる科目。
- 教職課程履修者は36ページを参照すること。
- 社会教育主事課程履修者は39ページを参照すること。
- 学部編入学希望者は40ページを参照すること。

【インストゥルメンツについて】

- 「インストゥルメンツⅠ・Ⅱ」で専攻できる楽器は次のとおり。
サクソフォーン、トランペット、トロンボーン、ギター、ベース、ドラムス
- 「インストゥルメンツⅠ①②」と「インストゥルメンツⅡ①②」で楽器の重複はできない。
- 「インストゥルメンツⅡ②」を履修する際に楽器変更することが可能。

【右表中の注意事項】

- ヴォーカルを主専攻とする者は必修。
- 「音楽基礎研究」「和声学①」のどちらか1つが教職必修。「和声学①」の履修を希望する者は、参考試験結果により「音楽基礎研究」を履修しなければならないことがある。
- 「日本伝統音楽演習Ⅰ」「日本伝統音楽演習Ⅱ」の両方を同学期同時限に履修すること。
※教職課程履修者のみ履修可。
- 「共同講義Ⅰ～Ⅳ」を履修する場合は、必ず「単位互換制度ガイダンス」に出席すること。
- 教職課程履修者は「ピアノⅡ②」を履修することが望ましい。
- 「ピアノⅡ①」の履修を希望する学生は、レッスン希望アンケートの結果により「鍵盤演奏表現Ⅰ」を履修しなければならないことがある。この場合は「ピアノⅡ①」は2年次に履修可。

音楽科 ポピュラー音楽コース

		1年				2年				
		科目名	単位	教職	注意	科目名	単位	教職	注意	
必修	専門科目	主ピア 攻ノ	ポピュラーピアノⅠ①	6			ポピュラーピアノⅠ②	6		
			キーボード演習①	2			キーボード演習②	2		
		ポピュラー作曲・編曲法①	4			ポピュラー作曲・編曲法②	4			
		アンサンブル①	2			アンサンブル②	2			
		ポピュラー音楽概論	4			卒業ライブ	1			
		ポピュラー演奏法①	2			ポピュラー演奏法②	2			
	主メソ ツツル	インストゥルメンツⅠ①	6			インストゥルメンツⅠ②	6			
		ポピュラーピアノ演習①	2			ポピュラーピアノ演習②	2			
	ウ 主オ 攻カ ル	ポピュラーピアノ演習①	4			ポピュラーピアノ演習②	4			
		ポピュラー作曲・編曲法①	4			ポピュラー作曲・編曲法②	4			
		アンサンブル①	2			アンサンブル②	2			
		ポピュラー音楽概論	4			卒業ライブ	1			
教養・基礎科目	ポピュラー演奏法①	2			ポピュラー演奏法②	2				
	芸術特別研究①	1			芸術特別研究②	1				
選択必修	外国語科目	芸術特別研究②	2※							
		セルフディベロップメント	2※							
		総合教養	2							
		音楽人基礎①	2							
		基礎英語	4							
		初級英語	4							
		中級英語Ⅰ	2							
		中級英語Ⅱ	2							
		中級英語Ⅲ	2							
		中級英語Ⅳ	2							
中級英語Ⅴ	2									
上級英語Ⅰ	2									
上級英語Ⅱ	2									
上級英語Ⅲ	2									
上級英語Ⅳ	2									
選択	専門科目	西洋音楽史	4			ヴォーカル演習②	2			
		基本ソルフェージュ(初級)	2	○		ソングライティング演習②	2			
		基本ソルフェージュ(中級)	2	○		スタジオレコーディングⅠ	1※			
		基本ソルフェージュ(上級)	2	○		ライブ実習Ⅰ	1※			
		視唱ソルフェージュ(初級)	2	○		ライブ実習Ⅱ	1※			
		視唱ソルフェージュ(中級)	2	○		A&Rプロデュース	4			
		視唱ソルフェージュ(上級)	2	○		サウンドクリエイト②	4			
		聴音ソルフェージュ(初級)	2	○		音響機器演習Ⅲ	2※			
		聴音ソルフェージュ(中級)	2	○		録音制作Ⅲ	2※			
		聴音ソルフェージュ(上級)	2	○		インストゥルメンツⅡ②	3			
		総合ソルフェージュ(初級)	2	○		ピアノⅡ②	3		E	
		総合ソルフェージュ(中級)	2	○		オペラ史概論	4			
		総合ソルフェージュ(上級)	2	○		音楽療法各論Ⅰ	2※			
		鍵盤ソルフェージュ(初級)	2	○		音楽療法各論Ⅱ	2※			
		鍵盤ソルフェージュ(中級)	2	○		合奏Ⅱ	2	○		
		鍵盤ソルフェージュ(上級)	2	○		指揮法	2	○		
		音楽産業概論Ⅰ	2			総合演習	2※			
		音楽産業概論Ⅱ	2			即興伴奏法	2	○		
		ダンス	2		A	民族音楽概論Ⅰ	2※	○		
		音響機器演習Ⅰ	2※			民族音楽概論Ⅱ	2※	○		
	ソングライティング演習①	2								
	インストゥルメンツⅡ①	3								
	ピアノⅡ①	3		F						
	声乐Ⅱ①	3	△2							
	ヴォーカル演習①	2	△2							
	西洋文化史Ⅰ	2※								
	西洋文化史Ⅱ	2※								
	音楽療法概説	2※								
	音楽療法演習Ⅱ	2※								
	音楽基礎研究	4	△1	B						
	合唱①	2	○							
	和声学①	4	△1	B						
日本音楽概論Ⅰ	2※	○								
日本音楽概論Ⅱ	2※									
サウンドクリエイト①	4									
作曲家・作品研究	2									
リズムトレーニング	1※									
教養・基礎科目	哲学	2※			鍵盤演奏表現Ⅲ	2				
	文学	2※			鍵盤演奏表現Ⅳ	2				
	美術史Ⅰ	2※			共同講義Ⅰ	2※		D		
	美術史Ⅱ	2※			共同講義Ⅱ	2※		D		
	日本国憲法	2※	○		共同講義Ⅲ	2※		D		
	経済学Ⅰ	2※			共同講義Ⅳ	2※		D		
	経済学Ⅱ	2※			音楽人基礎②	2				
	情報機器演習	2※	○							
	体育理論	2※	○							
	体育実技	1※	○							
	音響学	2※	○							
	音声学	2※	○							
日本伝統音楽演習Ⅰ	1※	○	C							
日本伝統音楽演習Ⅱ	1※	○	C							
海外研修Ⅱ	3									
海外研修Ⅳ	3									
海外研修Ⅴ	3									
音楽活動研究Ⅰ	1									
音楽活動研究Ⅱ	1									
鍵盤演奏表現Ⅰ	2		F							
鍵盤演奏表現Ⅱ	2									
ポアンティア論	2※									
日本文化史	2※									
外国語科目	基礎イタリア語	4			初級イタリア語	4				
	基礎ドイツ語	4			中級イタリア語Ⅰ	2				
	基礎フランス語	4			中級イタリア語Ⅱ	2				
					上級イタリア語	2				
					初級ドイツ語	4				
					中級ドイツ語Ⅰ	2				
					中級ドイツ語Ⅱ	2				
				上級ドイツ語	2					
				初級フランス語	4					
				中級フランス語	2					
				上級フランス語	2					

16 資格課程履修にあたっての注意

資格課程「教職／社会教育主事」履修にあたっては以下の点に注意すること

- ① 各課程の履修を希望する者は、1年次に所定の『課程履修願』を提出すること。
※『課程履修願』は各課程のオリエンテーション時に配付するので必ず参加すること。
※各課程の登録にあたっては、課程受講料の納入が必要となります。
- ※2年次以降に『課程履修願』を提出し各課程の履修を始めた場合、卒業の時点で当該免許を取得できないことがあります。この場合は必ず資格課程教員に相談してください。
- ② 各課程の資格取得に必要な授業科目を履修登録すること。
※科目履修にあたっては、この項以降をよく読んで、計画的に履修すること。
※『課程履修願』を提出せずに各課程の授業科目を履修登録しても、履修及び単位は認められないので注意すること。

17 教職課程

<教職課程の目的>

音楽教員としてばかりではなく、教育者として必要な幅広い知識を身につけ、学校教育の場面での指導に対応できる実践的な力量をつける。

【1】教育職員免許状の取得について

教員の資格を得ようとするものは「教育職員免許法」の定めるところに従って本学で開講する教職課程を履修しなければならない。この課程は卒業後教職につくために必要な教育の内容を身につけるためのものであり、ただ単に資格だけを得ようとする安易な考えの者は履修すべきでなく、またそれは常に教育実習校においても受け入れが敬遠される。教職課程の履修者は、将来教員になるという強い意志を持って真摯な態度で臨まなければならない。

*介護等の体験の義務づけについて

平成10年4月入学者より小学校及び中学校教諭の普通免許状を取得する希望者は、その取得要件として、盲学校、聾学校、養護学校及び社会福祉施設において、介護等の体験を7日間行いその実施証明書を免許状申請する際に添付することが義務づけられた。

この件については、別途説明会を行う予定である。

*教員免許更新制の導入について

平成19年6月20日に可決・成立した「教育職員免許法及び教育職員公務員特例法の一部を改正する法律」に基づき、平成21年度から10年ごとの教員免許更新制が導入されることになった。これを踏まえたうえで十分な心構えで履修してほしい。

【2】本学において取得できる教員免許状の種類

種 類	教 科
中学校教諭二種免許状	音 楽

【3】法律で定める科目及び単位数

A 教養・基礎科目

「日本国憲法」(2単位)、「体育(理論・実技)」(3単位)、「情報機器演習」(2単位)

B 外国語に関する科目

「外国語(コミュニケーションを含む)」(2単位)

C 教科に関する科目

教科に関する専門教育科目		最低必要単位数
音 楽	<ul style="list-style-type: none"> ・ソルフェージュ ・声楽(合唱及び日本の伝統的な歌唱を含む) ・器楽(合奏及び伴奏並びに和楽器を含む) ・指揮法 ・音楽理論、作曲法(編曲法を含む)及び 音楽史(日本の伝統音楽及び諸民族の音楽を含む) 	それぞれにおいて 1単位以上
上記科目の単位数を含め10単位以上を修得する。		

※ 教養・基礎科目、外国語科目、教科に関する科目については、上記法律で定める単位数の他に、本学で定める科目及び単位数の修得が必要である。

(各コース別 教育課程表参照)

D 教職に関する科目

次の表に規定する単位(26単位)を修得しなければならない。

	1年			2年		
	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
必修	教育原理	2※	A	教職論	2※	C
	教育心理学	2※		道徳指導法	2※	
	教科教育法(音楽)	4	B	教育相談法	2※	
	学習指導論	2※		教育実習	5	
	生徒指導論	2※		教職実践演習(中)	2※	
	特別活動指導法	1※				

表中の注意事項

A 教育に関する社会的制度的又は経営的事項を含む。

B 教職課程の意義及び編成の方法を含む。

C カウンセリングに関する知識を含む。

【4】教育実習について

A 2年次教職課程科目「教育実習」の受講資格について、次に定める。

① 次のいずれの条件をも満たす者

- ・ 教職課程科目の「教育原理」「教育心理学」「教科教育法(音楽)」「学習指導論」「生徒指導論」の5科目の単位が修得できていること。
- ・ 「日本国憲法」「体育理論」「体育実技」「情報機器演習」及び「外国語」(コミュニケーションを含む)の中から4単位以上修得できていること。
- ・ 「教科に関する科目」のうち、10単位以上修得できていること。

② 本学で行う「教育実習の事前指導 I・II」に出席したものであること。

③ 教育実習の履修年度末に卒業見込みであり、かつ教育職員免許状取得見込みであること。

④ 原則として2年次に教員採用試験を受験する者。

B「教育実習」履修に向けて、次に定める。

- ① 教育実習は2年次において履修し、原則として実習生の出身中学校にて4週間行うものとする。
その選定は本人が実習の前年度に行う。
- ② 実習を行う場合は本人が前年度に実習校へ内諾書用紙を持って依頼に行くこと。
- ③ 東京都の公立学校で実習を希望する者については、都教育委員会の申し入れにより都外在学者の受け入れは困難なため、早めに他校を選定のこと。また地域によっては実習生受け入れに関して種々の条件を付けるところもあるので、不備な点のないよう十分な対処が必要である。
- ④ ソルフェージュ科目を中級以上(種別は問わない)まで履修していること。

【5】教育職員免許状一括申請手続きについて

- ① 所定の単位を修得した者には申請により免許状が授与されるが、在學生にあつては卒業の際神奈川県教育委員会に対し大学で一括申請を行う。大学を通じて一括申請を希望する者は、掲示にて連絡するので手続のこと。
所定の申請期限までに手続をしない者は、個人申請となる。
- ② 一括申請の手続等については教職課程修了見込の卒業年度生を対象に行う。
- ③ 一括申請しなかった者は、卒業後各自現住所の都道府県の教育委員会へ個人申請の方法、手続等について問い合わせること。ただし、免許状が交付されるまでは2～3か月を要するのでできるだけ卒業年度に一括申請することが望ましい。
- ④ 介護等の体験に関する証明書について
免許状の申請に際して「介護等の体験を行った証明書」の添付が平成10年度4月入学者より義務づけられた。
この証明書は本人が所持するものであるので、紛失しないよう十分に注意すること。

18 社会教育主事課程

＜社会教育主事課程の目的＞

生涯学習時代といわれる現代社会において、多様な学習ニーズを持つ社会教育の現場に対応し、音楽の深い知識と高い技術を兼ね備えた社会教育主事(補)として活躍できる実践的な力量を持つ専門家を育てる。

この課程では、社会教育概論、社会教育計画、社会教育演習および実習等、社会教育法に定められた「社会教育に関する科目」を履修する。社会教育主事は都道府県または市町村の教育委員会の事務局に属し、社会教育を行う者に指導・助言する専門職員であり、指導主事と同様な専門的教育職員である。社会教育主事として任用されるためには、事務局で社会教育主事補として1年以上勤務することが必要である。

しかし、こうした資格の意味だけでなく、この課程を学ぶことは、音楽活動が社会の中で果たす場所、影響力を考える契機となる。音楽教室の講師や演奏活動を志す場合、自分の視野を広げて音楽を考えるために履修することを望む。

社会教育主事課程 開設科目

	1年			2年		
	科目名	単位	注意	科目名	単位	注意
社会 教育 主事 必修	生涯学習概論	4	A	社会教育計画	4	
	社会教育特講Ⅰ	4		社会教育演習および実習	4	
	社会教育特講Ⅲ	4		社会教育特講Ⅱ	4	

表中の注意事項

A 「社会教育特講Ⅲ」は、読み替え科目申請用紙を提出することが必要である。以下のabcいずれかを修得すれば、「社会教育特講Ⅲ」の修得を認定できる。

	授 業 科 目	単 位 数	教職課程 履修者	教職課程 履修者以外	備 考
a	教育心理学 教育原理	(2) 4	○	×	2科目の各2単位を 合算して4単位
b	西洋文化史Ⅰ 西洋文化史Ⅱ	(2) 4	○	○	2科目の各2単位を 合算して4単位
c	美術史Ⅰ 美術史Ⅱ	(2) 4	○	○	2科目の各単位を 合算して4単位

【社会教育主事課程科目の履修登録における注意】

大学または短大を卒業し「社会教育主事課程」の科目の一部を修得して、本学において既修得単位科目の認定を受けた者については、不足の科目のみ履修すればよい。

19 学部編入学

短期大学部卒業後、希望者には選考の上学部へ編入する道が拓かれている。

編入できる学科・コース、受験資格は次のとおりである。

各自、希望する学科・コースの科目を履修しておくこと。

(コース・単位修得状況によっては、学部新入学または学部2年次編入の可能性がある。)

○＝必修 △＝履修することが望ましい

			短大で在籍したコース(受験資格のあるもの)																				
			ピアノ	電子オルガン	弦・管・打	吹奏楽	音楽芸術	声楽	合唱指導者	バレエ	デジタルミュージック	ポピュラー音楽											
編入希望学科・コース	器楽学科	ピアノ演奏家Ⅰ	伴奏法①	○																			
			伴奏法②	○																			
			和声学②	△																			
		ピアノ音楽	和声学②	△	△	△																	
			音楽理論(中級)	/	/	/																	△
		ピアノ指導者	鍵盤音楽史	△	△	/																	
			リトミック①	△	△	△																	△
			リトミック②	△	△	△																	△
			鍵盤音楽史	△	△	/																	/
			音楽生理学	△	/	/																	/
	児童心理		△	/	/																	/	
	和声学②		△	△	△																	/	
	音楽理論(中級)	/	/	/																	△		
	オルガン※1	和声学②																					
	電子オルガン※2	合奏Ⅱ		/																			
		即興伴奏法		/																			
		和声学②		/																			
	弦管打楽器3コース※3	楽器史				△																	
		和声学②				△		△															
	ジャズ ポピュラー音楽	リズムトレーニング																				△	
スタジオレコーディングⅠ																					△		
ライブ実習Ⅰ																					△		
ライブ実習Ⅱ																					△		
声楽	基礎イタリア語								○	/		△											
	初級イタリア語								○	/		△											
	オペラ史概論								△	△	△	△											
	身体表現法①								/	○	○												
	身体表現法②								/	○	○												
	和声学②								△	△	△	△											
ジャズ ポピュラー音楽	リズムトレーニング																				△		
	スタジオレコーディングⅠ																				△		
	ライブ実習Ⅰ																				△		
	ライブ実習Ⅱ																				△		
アートマネジメント	経済学Ⅰ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
	経済学Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
音楽芸術運営学科	舞台スタッフ	英語	英語科目を最低4単位																				
		英語	英語科目を最低4単位																				
	音楽療法	音楽療法概説	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		音楽療法演習Ⅱ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
		音楽療法各論Ⅰ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
		音楽療法各論Ⅱ	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	
	バレエ	バレエ指導法演習①																				○	
		バレエ指導法演習②																				○	
		舞踊譜演習																				○	
		バレエ実習Ⅴ①																				○	
バレエ実習Ⅴ②																					○		

※1 音楽科でオルガンを選択した者のみ受験可。

※2 音楽科で電子オルガンを選択した者のみ受験可。

※3 弦・管・打楽器コースへの編入は、短大で専攻していた楽器に限る。

吹奏楽コース、音楽芸術コースからの場合も同じ。

弦・管・打楽器コース、弦・管・打楽器指導者コース、弦・管・打楽器演奏家コースのコース希望は、

編入学試験の出願時に申請する。

<作曲学科への編入学について>

作曲学科への編入については、欠員があった場合のみ募集することがある。

20 教務関係用語の解説

カ	カリキュラム(かりきゅらむ)	教育目的を達成するために選ばれた教育内容、科目の体系。授業科目、単位数、学修の時期等の総称。教育課程。
キ	既修者(きしゅうしゃ)	既に単位を修得している者。単位が取れている者。
ク	クラス指定(くらすしてい)	複数開講されるクラスの中で、グレードやコース等により、自分の入るべきクラスが指定してある科目のこと(別冊子「履修登録に関する注意事項」参照)。
シ	実技レッスン(じつぎれっすん)	ピアノ、声楽、器楽等の個人レッスン。全ての個人レッスンに科目の名称が付いているので、それぞれの科目名で履修登録が必要。
	修得(しゅうとく)	学問や技術を学んで、身につけること。単位が取れていること。
	シラバス(しらばす)	各年度始めに配布される「授業計画」という冊子。講義の要旨や計画、評価方法、使用テキスト等が記載されている。
セ	選択(せんたく)	各自の必要に応じて、科目を自由に選ぶこと。
	選択必修(せんたくひっしゅう)	定められた複数の科目の中から、あらかじめ指定されている条件に従い、学生が選択し単位修得しなくてはならない科目のこと。
タ	単位(たんい)	学習の量と質を測る基準。科目を履修し、定められた水準を達成すると、各科目の単位が認定される。卒業するためには必修・必修選択・選択の「単位」の欄に記載されている数字を合計し、62単位以上修得しなければならない。
ツ	追試験(ついしけん)	定期試験を欠席し、追試験を希望する学生に対して行われる試験。9ページ参照。
ヒ	必修(ひっしゅう)	必ず学ばなければならないもの。在学中に必ず単位修得しなくてはならない科目。
リ	履修(りしゅう)	その科目を学習すること。年度(学期)のはじめに科目を登録すること。
	履修要綱(りしゅうようこう)	本冊子。入学時に配布され、卒業に必要な単位等、重要な事柄をまとめたもの。卒業までの間、通して使用する。

学籍番号		氏名	
------	--	----	--